

2022 年度  
シラバス  
(講義計画)

学校法人 立志舎  
専門学校日本動物 2 1  
【動物管理学科】

昼間部 動物管理専門課程（文化・教養） 動物管理学科 2年制

頁数	科目区分	必修・ 選択の別	授業科目	授業 形態	第一学年		第二学年		授業時数 合計	単位数 合計
					授業時数	単位数	授業時数	単位数		
1	一般 科目	必修	ビジネスマナー	講義	60	2			60	2
2			就職ゼミナール	演習			60	2	60	2
3			総合講座Ⅰ	講義	30	1			30	1
4		総合講座Ⅱ	講義	30	1			30	1	
5		コンピュータ演習Ⅰ	演習	60	2			60	2	
6		コンピュータ演習Ⅱ	演習			60	2	60	2	
7		必修	卒業研究	演習			150	5	150	5
8	専門 科目	選択 必修	グルーミング実習Ⅲ	実習			90	2	90	2
9			グルーミング実習Ⅳ	実習			45	1	45	1
10			グルーミング実習Ⅰ	実習	90	3			90	3
11			グルーミング実習Ⅱ	実習	90	3			90	3
12			グルーミング実習Ⅲ	実習			90	3	90	3
13			グルーミング実習Ⅳ	実習			30	1	30	1
14			グルーミング論Ⅰ	演習	30	1			30	1
15			グルーミング論Ⅱ	演習	30	1			30	1
16			グルーミング論Ⅲ	演習			30	1	30	1
17			犬の行動心理学Ⅰ	演習	30	1			30	1
18			犬の行動心理学Ⅱ	演習	30	1			30	1
19			犬の行動心理学Ⅲ	演習			30	1	30	1
20			犬の行動心理学Ⅳ	演習			30	1	30	1
21			インターンシップ	実習	45	1			45	1
22			グルーミング研究Ⅲ	実習			90	2	90	2
23			グルーミング研究Ⅳ	実習			45	1	45	1
24			グルーミング研究Ⅰ	実習	90	3			90	3
25			グルーミング研究Ⅱ	実習	90	3			90	3
26			グルーミング研究Ⅲ	実習			90	3	90	3
27			グルーミング研究Ⅳ	実習			30	1	30	1
28			基礎獣医学Ⅰ	講義	30	1			30	1
29			基礎獣医学Ⅱ	講義	30	1			30	1
30			基礎獣医学Ⅲ	講義			30	1	30	1
31			基礎獣医学Ⅳ	講義			30	1	30	1
32			動物学	講義	30	1			30	1
33			ペットシッティング実習Ⅰ	実習	45	1			45	1
34			ペットシッティング実習Ⅱ	実習	45	1			45	1
35			ペットシッティング実習Ⅲ	実習			45	1	45	1
36			ペットシッティング実習Ⅳ	実習			45	1	45	1
37			動物関係法令	演習	60	2			60	2
38			家庭動物管理学	講義	60	2			60	2
39			接客マナー	講義			60	2	60	2
40			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	実習			90	2	90	2
41			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	実習			45	1	45	1
42			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ	実習	90	3			90	3
43			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ	実習	90	3			90	3
44			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	実習			90	3	90	3
45			しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	実習			30	1	30	1
46			ペットビジネス演習Ⅲ	演習			90	3	90	3
47			ペットビジネス演習Ⅳ	演習			60	2	60	2
48			ドッグセラピーⅢ	演習			30	1	30	1
49			ホリスティックケアⅢ	講義			60	2	60	2
50	ホリスティックケアⅣ	講義			60	2	60	2		
51	ペットビジネス演習Ⅰ	演習	60	2			60	2		
52	ペットビジネス演習Ⅱ	演習	60	2			60	2		
53	ペットビジネス演習Ⅲ	演習			60	2	60	2		
54	ペットビジネス演習Ⅳ	演習			15	1	15	1		
55	ホリスティックケアⅠ	演習	30	1			30	1		
56	ホリスティックケアⅡ	演習	30	1			30	1		
57	ホリスティックケアⅢ	演習			30	1	30	1		
58	ホリスティックケアⅣ	演習			15	1	15	1		
59	動物繁殖学	講義			30	1	30	1		
60	動物病理学	講義			30	1	30	1		
61	動物薬理学	講義			60	2	60	2		
62	動物感染症学	講義			90	3	90	3		
63	公衆衛生学	講義			60	2	60	2		
64	動物内科看護学	講義			30	1	30	1		
65	動物外科看護学	講義			60	2	60	2		
66	動物臨床看護学総論	講義			30	1	30	1		
67	動物臨床栄養学	講義			60	2	60	2		
68	動物内科看護学実習	実習			90	2	90	2		
69	動物臨床検査学実習Ⅱ	実習			45	1	45	1		
70	動物外科看護学実習	実習			90	2	90	2		
71	動物看護総合実習Ⅱ	実習			90	2	90	2		
必修科目合計					60		210		270	
選択必修科目合計					1305		2310		3615	
卒業に必要な総授業時数					920		800		1720	

1. 講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。
2. 選択必修についてはこの中からコース毎に下記の単位数以上を履修すること。  
 グルーミングコース 46単位  
 ドッグトレーナーコース 46単位  
 ペットショップ&セラピーコース 47単位
3. 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	履修科目	本校において履修したとみなす授業時数(単位数)
一般科目	東京法律公務員専門学校 法律専門課程 行政学科(1年制)	社会科学概論	40時間(2単位)
		社会科学演習	60時間(3単位)
		人文科学概論	40時間(2単位)
		人文科学演習	40時間(2単位)
		自然科学概論	40時間(2単位)
		自然科学演習	40時間(2単位)
		時事研究	40時間(2単位)
		論作文	40時間(2単位)
専門科目	東京法律公務員専門学校 法律専門課程 行政学科(1年制)	判断推理	40時間(2単位)
		判断推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		数的推理	60時間(3単位)
		数的推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		資料分析	40時間(2単位)
		文章研究	40時間(2単位)
		適性演習	40時間(2単位)
		トレーニング演習	40時間(2単位)

科目名：ビジネスマナー

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：一般科目 分類：必修

授業方法：講義

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員とは、新人社員研修、接客・接遇マナー研修を事業展開している企業の研修担当者。獣医学専門誌、動物看護専門誌、トリマー向けの専門誌などの出版事業を行っている企業の営業部長である。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

本講義では、社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人になることを目標とする。本講座は、本学教員による講義と併せて、ビジネスマナーについて精通している外部教員の講話により構成される。ビジネス能力検定（B検）ジョブパスの受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 職場の人間関係
2. 就業中のマナー
3. 挨拶とお辞儀
4. 服装・身だしなみ
5. 話し方の基本
6. 言葉遣い
7. 上司・来客との話し方・聞き方
8. 電話対応
9. 来客対応
10. 名刺交換と紹介
11. 面談
12. 冠婚葬祭のマナー
13. 新入生就職セミナーの開催（2022年4月実施予定）
14. 講演会の実施
15. ビジネス能力検定（B検）ジョブパスの受験

〔テキスト〕

ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・問題集、必要に応じプリントを配付する。

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：就職ゼミナール

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2

種類：一般科目 分類：必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（各業界を代表する企業の人事担当者）

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。更には、面接選考の仕組みを理解し、GD／集団面接／個別面接／最終面接の面接ポイントを理解する講座。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員（各業界を代表する企業の人事担当者）の講話により構成される。

〔講義・演習項目〕

1. 職業についての考え方
2. 就職を取り巻く社会状況の分析
3. 就職活動の予備知識
4. 企業研究の仕方
5. 自己分析の仕方
6. 礼儀・マナーの知識
7. 敬語表現
8. ビデオ等による事例研究
9. 履歴書作成
10. 面接練習
11. 学内就職セミナー、学内就職説明会の実施

〔テキスト〕

必要に応じプリントを配付する。

〔成績評価〕

授業期間中に提出されるレポート、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：総合講座 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：一般科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付けることを目標とする。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける講座。就職活動を円滑に進めるための目的ではあるが、仕事を行う上で最低限必要な知識を身に付け、企業で役立つ社会人になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 割合を解く
2. 文字式で解く
3. 表を読む
4. 図で解く
5. ゲーム感覚で解く
6. 公式で解く
7. フローチャート
8. 特殊な計算
9. 理科問題を解く
10. 言葉を比べる
11. 長文を読む

〔テキスト〕

SPI 基礎（ベシック）テキスト、問題集、必要に応じプリントを配付する

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：総合講座Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：一般科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにすることを目標とする。また、就職活動を始める前段階として社会でのマナーと技能を弁え、「コミュニケーション」でビジネス上でより良い人間関係を築くスキルを、「ビジネスマナー」で業務をスムーズに進めて行く中で必要なマナーや技術をはぐくむ講座。就職活動を円滑に進めるための目的ではあるが、仕事を行う上で最低限必要な知識を身に付け、企業で役立つ社会人になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 割合を解く（応用問題）
2. 文字式で解く（応用問題）
3. 表を読む応用（応用問題）
4. 図で解く応用（応用問題）
5. ゲーム感覚で解く（応用問題）
6. 公式で解く（応用問題）
7. フローチャート（応用問題）
8. 特殊な計算（応用問題）
9. 理科問題を解く（応用問題）
10. 言葉を比べる（応用問題）
11. 長文を読む（応用問題）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：コンピュータ演習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2  
種類：一般科目 分類：選択必修  
授業方法：演習  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット業界であってもパソコンの操作技術は業務を円滑に進めるツールである。本講座では、パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Word を中心として、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学び、実践で役立つ人材の育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 文書の作成
2. 文書の管理
3. 文字、段落、セクションの書式設定
4. 表の作成、変更
5. リストの作成、変更
6. 参考資料の作成
7. 参考資料の管理
8. グラフィック要素の挿入
9. グラフィック要素の書式設定
10. 模擬試験

〔テキスト〕

MOS Word 2016 対策テキスト&問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



科目名：コンピュータ演習Ⅱ

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  
種類：一般科目 分類：選択必修  
授業方法：演習  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット業界であってもパソコンの操作技術は業務を円滑に進めるツールである。パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excel を中心として、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学び、実践で役立つ人材育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. ワークシートやブックの作成
2. ワークシートやブックの管理
3. セルやセル範囲のデータの管理
4. テーブルの作成
5. 関数によるのデータ集計
6. 関数による条件付き計算
7. 関数による書式設定
8. グラフの作成
9. グラフの書式設定
10. オブジェクトの挿入、書式設定
11. 模擬試験

〔テキスト〕

MOS Excel2016 対策テキスト&問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：卒業研究

開講年次：2年 授業時数：150 単位数：5  
種類：専門科目 分類：必修  
授業方法：演習  
担当教員：本学職員

〔講義主要目標及び講義概要〕

就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動することを目標とする。動物看護コースにおいては、専門分野を選定し、論文のテーマとして提出することを推奨している。

〔講義・演習項目〕

1. 卒業研究概要
2. テーマの選定
3. テーマの決定
4. テーマの研究
5. 情報収集
6. 情報研究
7. 下書き作成
8. 下書き校正
9. 清書作成
10. 製本

〔テキスト〕

学生が収集した卒業研究に関する資料  
独自に作成したプリント教材（論文書き方等説明）

〔成績評価〕

目標進捗度に合わせた提出期限内での提出状況、提出された論文の内容、出席状況等を総合的に判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員  
(実務経験のある本学教員はペットサロンでのトリマー経験が3年、専門学校での教員経験が2年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

プードルのカットとして、ケネル（ラム）カットを主に、一人でベーシックからクリッピング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 一人で行う犬の保定技術
2. 一人で行う犬のベーシック技術
3. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部①）
4. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（足先・下腹部）
5. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（後躯・後肢）
6. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（前躯・前肢）
7. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部②）
8. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（耳・尾）
9. 犬種の特徴によるグルーミング（非カット犬種）
10. 犬種の特徴によるグルーミング（カット犬種）

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：グルーミング実習Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修</p> <p>授業方法：実習</p> <p>担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員  (実務経験のある本学教員はペットサロンでのトリマー経験が3年、専門学校での教員経験が2年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。)</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プードルのカット方法 (ケネルカット以外のカット方法)</li> <li>2. アメリカン・コッカー・スパニエルのグルーミング</li> <li>3. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのグルーミング</li> <li>4. シー・ズーのグルーミング</li> <li>5. シェットランド・シープドッグのグルーミング</li> <li>6. ビション・フリーゼのグルーミング</li> <li>7. ポメラニアン of グルーミング</li> <li>8. マルチーズのグルーミング</li> <li>9. ミニチュア・シュナウザーのグルーミング</li> <li>10. ヨークシャー・テリアのグルーミング</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験 (実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>

科目名：グルーミング実習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員は動物病院でのトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が5年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミングの基礎知識を実習から学び、トリミング基礎技術を修得することを目標とする。グルーミングの基礎知識として、犬の骨格・犬体名称・体温測定・耳及び爪の構造並びに手入れの方法や犬用シャンプー及びリンスの種類と効用などを講義及び実習にて学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 健康管理（体温測定・脈拍測定）実践
2. 保定方法（小型犬・中型犬・大型犬）実践
3. 耳の手入れ法の実践
4. 爪の手入れ法の実践
5. ブラッシングの実践
6. シャンプーイングの実践
7. ドライングの実践
8. クリッパーの実践
9. ダックスフンドのグルーミング実践
10. チワワのグルーミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員は動物病院でのトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が5年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミングの基礎知識を実習から学び、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ベイジングを一人でできるような実習を行う。実習の内容は、実務経験のある本学教員が経験した実体験に沿って、怪我のリスクなども考慮した実務の経験に基づいた内容とし、自立した職業人（トリマー）を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 小型犬のベイジング
2. 大型犬のベイジング
3. トリミングの基本
4. 短毛種のシャンプーの仕方
5. 長毛種のシャンプーの仕方
6. 大型犬のシャンプーの仕方
7. グルーミング犬種のカットの実践
8. トリミング犬種のカットの実践
9. クリッパーの使い方
10. 犬種別の応用

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名:グルーミング実習Ⅲ

開講年次: 2年 授業時数: 90 単位数: 3

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員(実務経験のある本学教員はペットサロンでのトリマー経験が3年、専門学校での教員経験が2年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬・大型犬などの多種多様な犬種の特徴に合わせたグルーミングやトリミングが実践できるような技術を修得し、トリマーとしての応用力を育成すること目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. プードルのケネル&ラムクリップのトリミング実践
2. プードルのテディ・ベアカットのトリミング実践
3. ポメラニアン of トリミング実践
4. シーズーのトリミング実践
5. マルチーズのトリミング実践
6. ミニチュア・シュナウザーのトリミング実践
7. ヨークシャーテリアのトリミング実践
8. ゴールデンレトリバーのトリミング実践
9. スタンダード・プードルのトリミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング実習Ⅳ

開講年次: 2年 授業時数: 30 単位数: 1

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員はペットサロンでのトリマー経験が3年、専門学校での教員経験が2年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬から中・大型犬について多種多様な犬種の特徴に合わせたトリミング技術を高めるとともに、飼い主からのオーダーに合わせたグルーミングができる技術を修得し、トリマーとしての実践力の育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 各犬種に対応するグルーミング技術の実践
2. アメリカン・コッカー・スパニエルのトリミング実践
3. ウェスト・ハイランド・ホワイトテリアのトリミング実践
4. シェットランド・シープドッグのトリミング実践
5. ペキニーズのトリミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



<p>科目名：グルーミング論 I</p>	<p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：演習  担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員は動物病院でのトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が5年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。道具を常に清潔に扱えるトリマーの育成を目標とする。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グルーミングの目的</li> <li>2. 犬体・骨格の名称</li> <li>3. グルーミング道具の使用法とお手入れ方法</li> <li>4. 健康管理（体温測定、脈拍測定、体重測定など）</li> <li>5. 犬の保定法（小型犬・中型犬・大型犬）</li> <li>6. 耳掃除の方法</li> <li>7. 爪切りの方法</li> <li>8. シャンプーイングの方法</li> <li>9. ドライングの方法</li> <li>10. ダックスフンドのグルーミング方法</li> <li>11. チワワのグルーミング方法</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	

科目名：グルーミング論Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員は動物病院でのトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が5年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬種の特徴合わせたグルーミング方法とトリミング方法について、必要な知識の修得をを目標とする。特に、トリミング犬種の基本となるプードルのペットカット技法を中心に修得することを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 小型犬のグルーミング方法
2. 大型犬のグルーミング方法
3. プードルのケネル・クリップ（後躯）トリミング方法
4. プードルのケネル・クリップ（前躯）トリミング方法
5. プードルのケネル・クリップ（頭部）トリミング方法
6. プードルのテディ・ベアカット（頭部）トリミング方法
7. プードルのテディ・ベアカット（体躯）のトリミング方法
8. プードルのテリア・カット（頭部）のトリミング方法
9. プードルのテリア・カット（体躯）のトリミング方法

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：グルーミング論Ⅲ</p>	<p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員はペットサロンでのトリマー経験が3年、専門学校での教員経験が2年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>小型犬・大型犬の多種多様な犬種の特徴を学び、犬種に合わせたトリミングが実践できるような知識の修得を目標とする。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポメラニアン（スタンダード・スタイル）のトリミング方法</li> <li>2. ポメラニアン（ショート・カット）のトリミング方法</li> <li>3. シーズーの（ショート・カット）のトリミング方法</li> <li>4. マルチーズ（ロング・スタイル）のトリミング方法</li> <li>5. マルチーズ（サマー・カット）のトリミング方法</li> <li>6. ミニチュア・シュナウザー（ペット・スタイル）</li> <li>7. ヨークシャーテリア（ショート・カット）のトリミング方法</li> <li>8. ヨークシャーテリア（テリア・カット）トリミング方法</li> <li>9. ゴールデンレトリバーグルーミング方法</li> <li>10. ゴールデンレトリバー（ショート・スタイル）のトリミング方法</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	

科目名：犬の行動心理学 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において6年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につけることを目標とする。全日本ハンドリング検定試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. しつけとは何か
2. トレーニングの必要性
3. トレーニングの重要性
4. 犬の起源と変化
5. 犬の役割について
6. 犬のコミュニケーションと学習
7. 成長過程での学習の大切さ
8. ハンドリングとドッグショーの歴史
9. 犬の体の構造
10. ハンドリング技術①（スタック）
11. ハンドリング技術②（アップ&ダウン）
12. ハンドリング技術③（トライアングル）
13. ハンドリング技術④（ラウンド）
14. ハンドリング技術⑤（リードワーク）
15. 全日本ハンドリング検定試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において6年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行うことを目標とする。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性（コミュニケーション）の築き方を学び、犬とのコミュニケーションが円滑に進めるような演習を展開する。犬とのコミュニケーションができるようになって、停座訓練、伏臥訓練、招呼訓練へと進むことができる。

〔講義・演習項目〕

1. しつけに必要な理論
2. 犬のボディランゲージ
3. カーミング・シグナル（犬の範囲認識）
4. カーミング・シグナル（犬のストレス）
5. 犬のコミュニケーション
6. ケージに入って休むことの大切さ
7. いかにして犬のリーダーになるか
8. 犬の状態を理解する①（犬の触り方）
9. 犬の状態を理解する②（犬との親和）
10. 指示の仕方や種類（声符、視符）
11. 停座訓練
12. 伏臥訓練
13. 招呼訓練
14. 居座、立止訓練
15. 脚側行進訓練

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において23年の勤務経験があるドッグスクールの所長。家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング（犬の行動を引き出す技術）を行うことを目標とする。応用編とはいえ、犬の行動心理学Ⅱで学修した停座訓練、伏臥訓練、招呼訓練、居座、立止訓練、脚側行進訓練は重要技法であり、継続して行っていく。

〔講義・演習項目〕

1. 犬のトレーニング（犬の学習と効果）
2. 犬のトレーニング（正の強化と効果）
3. 犬のトレーニング（一次性強化子・二次性強化子）
4. 犬のトレーニング（嫌悪刺激について）
5. 犬のトレーニング（基本的な指針）
6. 犬の行動を引き出す
7. 犬という動物を見直す
8. 停座訓練
9. 伏臥訓練
10. 招呼訓練
11. 居座、立止訓練
12. 脚側行進訓練

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において23年の勤務経験があるドッグスクールの所長。家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

多くの犬種の特性と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれることを目標とする。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。ここで行うアジリティはハードル、ジャンプ障害、タッチ障害、その他障害を示す。

〔講義・演習項目〕

1. 咬みつく犬
2. 犬との暮らし
3. 犬の問題行動対処法
4. 人とのコミュニケーション・スキル
5. 犬のしつけトレーニングの基礎
6. 仔犬のしつけ教室
7. ケアと管理
8. アジリティ競技とは
9. ジャンプ障害（ハードル）
10. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
11. タッチ障害（Aフレーム）
12. タッチ障害（ドッグウォーク）
13. その他障害（スラローム）
14. その他障害（トンネル（チューブ・ソフト））

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：インターンシップ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：企業連携先の担当者（実務者）、実務経験のある本学教員及び本学教員

（企業連携先の担当者（実務者）とは、企業連携先の獣医師、動物看護師、犬の訓練士、トリマー等のことで、これらの中で実務的な作業を企業連携授業として展開する。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

生涯職業計画の指針として、職業選択、適性を見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択でき、飼主目線での接遇法の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 社会人と学生の違い
2. 業界の知識
3. あいさつ・敬語の使い方
4. 就業中のマナー
5. 電話対応
6. 接客対応
7. 金銭管理
8. 生体管理・飼育方法
9. 消耗品の管理
10. 備品の管理
11. インターンシップ実施期間：2022年1月31日～2月6日の間で実施予定

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

通常登校時の出席状況、インターンシップ先への出席状況、インターンシップ評価書及びインターンシップ日誌等において総合的に判断する。



科目名：グルーミング研究Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員（約15年の実務経験があり、前向きでハキハキとした明朗快活な講師。現場では犬の扱いが良く作業スピードが非常に早いと評価を受ける。現場での後輩指導を活かした実習を目指す。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬や大型犬、様々な犬種の特徴に応じたグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. スピードトリミング
2. アメリカン・コッカー・スパニエルのグルーミング
3. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのグルーミング
4. シー・ズーのグルーミング
5. シェットランド・シープドッグのグルーミング
6. ビション・フリーゼのグルーミング
7. ポメラニアン・のグルーミング
8. マルチーズのグルーミング
9. ミニチュア・シュナウザーのグルーミング
10. ヨークシャー・テリアのグルーミング

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング研究Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員（約17年の実務経験があり、本学での教員経験は2年目。トイプードルのカットに優れ国内外でのカットコンテスト入賞経験を持つ。現場でのトリミングマネージャー経験を活かし実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

トリマーとして必要となる接客技術やお客様（お預かり犬）の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となりうる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. デザインカットの研究
2. カラーリングの基礎知識
3. スピードトリミング
4. 犬種の特性に合ったグルーミングの技術と知識
5. アメリカン・コッカー・スパニエル
6. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア
7. シー・ズー
8. シェットランド・シープドッグ
9. ビション・フリーゼ
10. ポメラニアン
11. マルチーズ
12. ミニチュア・シュナウザー
13. ヨークシャー・テリア

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング研究 I

開講年次: 1年 授業時数: 90 単位数: 3

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 本学教員および実務経験のある教員 (約7年の実務経験があり、内5年の教員経験を持つ。誠実で向上心があり、基礎がしっかりと入った技術力を基に生徒1人1人に沿った実技実習を目指す。現在 JKC の委員にて活躍中。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。また、ドッグショーのトリミングに関する知識・技術の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 耳の手入れ法の研究
2. 爪の手入れ法の研究
3. ブラッシングの研究
4. シャンプーイングの研究
5. ドライニングの研究
6. クリッパーの研究
7. 犬体カット方法
8. リボン・ラッピングの方法
9. プードルのドッグショークリップの基礎

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験 (実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング研究Ⅱ

開講年次: 1年 授業時数: 90 単位数: 3

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 本学教員および実務経験のある教員(約15年の実務経験があり、本学での教員経験は4年目。責任感が強く、現場ではトリミングマネージャーを任せられ、部下・後輩指導に努めた。グルーミング技術と関連知識を基礎から教える。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

生体実習によりグルーミングの基礎技術を高め、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目標とする。さらに全日本グルーミング検定3級の合格を目標とする。また飼い主様からのオーダー取りやカルテ作製などを学び実践する。

〔講義・演習項目〕

1. プードルのケネル・クリップのトリミング研究
2. プードルのテディ・ベアカットのトリミング研究
3. プードルのボレロ・マンハッタンのトリミング実践
4. プードルのタウン&カントリークリップのトリミング実践
5. グルーミングオーダーの取り方・カルテ作製
6. オーナーとのコミュニケーション実践
7. 薬用シャンプーの基礎知識・実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名:グルーミング研究Ⅲ

開講年次:2年 授業時数:90 単位数:3

種類:専門科目 分類:選択必修

授業方法:実習

担当教員:本学教員および実務経験のある教員(約15年の実務経験があり、前向きでハキハキとした明朗快活な講師。現場では犬の扱いが良く作業スピードが非常に早いと評価を受ける。現場での後輩指導を活かした実習を目指す。)

[講義主要目標及び講義概要]

犬は動かないでいることが苦痛と感じる生き物である。小型犬から中・大型犬について犬種の特性に合ったグルーミングの技術と知識を学び、時間を短縮して犬に負担をよりかけないトリミング技法を見つけることが目標である。

[講義・演習項目]

1. 犬種に合わせたトリミング実践
2. デザインカット(アフロカット)実践
3. デザインカット(モヒカンカット)実践
4. デザインカット(ハート)実践
5. スピードトリミングの基礎知識
6. スピードトリミング実践
7. プラッキングの基礎知識
8. シー・ズーの基礎知識
9. 犬種の特性に合ったグルーミングの技術と知識
10. カラーリングの基礎知識

[テキスト]

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

[成績評価]

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名:グルーミング研究IV

開講年次:2年 授業時数:30 単位数:1

種類:専門科目 分類:選択必修

授業方法:実習

担当教員:本学教員および実務経験のある教員(約7年の実務経験があり、現場では早くからトリミングリーダーを任され部下・後輩指導に努めた。飼い主さんからの細やかなヒアリングにより、犬に寄り添ったトリミングを心掛ける。真面目で優しい気風を活かし、生徒に寄り添った実習を目指す。)

[講義主要目標及び講義概要]

犬種や飼い主からのオーダーに応じたグルーミングができる技術に高めるとともに、グルーミングにおける多種多様なサービスに対応した知識・技術を修得し、即戦力となりうるトリマーの育成を目標とする。さらに、全日本グルーミング検定2級の合格を目標とする。

[講義・演習項目]

1. オーダーに応じたグルーミング実践
2. ペットエステの基礎知識
3. ペットエステ(マイクロバブル・炭酸泉)の実践
4. ペットエステ(カラーリング)の実践
5. ペットエステ(泥パック)の実践

[テキスト]

Dog Grooming Book、

[成績評価]

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎獣医学Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（実務経験豊富な教員（動物病院での小動物臨床の傍ら、専門学校での講師経験、遺伝子研究経験、ドッグサロン勤務経験等を有する。特に外科手術を得意とし、現在も動物病院勤務の他、動物愛護やTNR活動も行っている経験から、多方向から動物業界の実践に応用できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の体の組織や器官の仕組みを理解出来るようにする。また、動物をとり囲む環境要因や疾病についても学ぶ。講義の内容は、実務経験のある獣医師が経験した臨床経験をもとにし、トリマー、犬の訓練士、ペットショップスタッフが知っておくべき獣医療を主とする。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、感染症について学習し、飼主にアドバイスができる人材になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 動物ののからだの仕組みと働き
2. 動物の飼養管理（総論）
3. 犬の飼養管理
4. 猫の飼養管理
5. 日常の健康管理
6. ワクチンで予防できる病気
7. 外部寄生虫の予防
8. 外部寄生虫の駆除
9. 腸管内寄生虫の予防
10. 腸管内寄生虫の駆除

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士2級 第2巻、コンパニオン・アニマルの新健康管理学

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：基礎獣医学Ⅱ</p>	<p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある教員（実務経験豊富な教員（動物病院での小動物臨床の傍ら、専門学校での講師経験、遺伝子研究経験、ドッグサロン勤務経験等を有する。特に外科手術を得意とし、現在も動物病院勤務の他、動物愛護やTNR活動も行っている経験から、多方向から動物業界の実践に応用できる授業を展開している。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習し、飼主にアドバイスができる人材になることを目標とする。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物の状態確認の方法</li> <li>2. 外傷応急処置</li> <li>3. その他の応急処置</li> <li>4. 中毒について</li> <li>5. 人工呼吸とマッサージ</li> <li>6. 感染症概論</li> <li>7. 滅菌と消毒</li> <li>8. 消毒薬</li> <li>9. 院内・店内感染</li> <li>10. 代表的な感染症とその予防</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕  愛玩動物飼養管理士2級 第2巻 コンパニオン・アニマルの新健康管理学</p>	
<p>〔成績評価〕  授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	



科目名：基礎獣医学Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（実務経験豊富な教員（動物病院での小動物臨床の傍ら、専門学校での講師経験、遺伝子研究経験、ドッグサロン勤務経験等を有する。特に外科手術を得意とし、現在も動物病院勤務の他、動物愛護やTNR活動も行っている経験から、多方向から動物業界の実践に応用できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できることを目標とする。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、分娩について学ぶ。さらに幼齢動物・老齢動物の飼育管理を理解する。

〔講義・演習項目〕

1. ズーノーシス概論
2. 狂犬病
3. 代表的なズーノーシス
4. 食中毒を引き起こすズーノーシス
5. ズーノーシスの予防法
6. 繁殖の基礎知識
7. 受精・分娩・新生子の管理
8. 遺伝学
9. 幼齢動物の管理
10. 老齢動物の管理

〔テキスト〕

コンパニオン・アニマルの新健康管理学、補助プリント

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎獣医学IV

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（実務経験豊富な教員（動物病院での小動物臨床の傍ら、専門学校での講師経験、遺伝子研究経験、ドッグサロン勤務経験等を有する。特に外科手術を得意とし、現在も動物病院勤務の他、動物愛護やTNR活動も行っている経験から、多方向から動物業界の実践に応用できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにすることを目標とする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。

〔講義・演習項目〕

1. エキゾチックアニマル
2. 犬と猫の歴史と種類
3. 動物行動学
4. 産業動物
5. 実験動物
6. 展示動物
7. 野生動物
8. 動物福祉と人間動物関係学
9. 動物看護の関連法規
10. 動物看護の課題

〔テキスト〕

コンパニオン・アニマルの新健康管理学、補助プリント

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物学

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：専門科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて理解することを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 犬の体の部位・骨格
2. ガン・ドッグの犬種名及び特徴性格
3. ハウンドの犬種名及び特徴性格
4. ワーキング・ドッグの犬種名及び特徴性格
5. テリアの犬種名及び特徴性格
6. トイの犬種及び特徴性格
7. コンパニオン・ドッグの犬種名及び特徴性格
8. 猫の体形と部位名称
9. 猫の品種とその性格
10. 猫の飼育管理

〔テキスト〕

世界の犬図鑑、世界の猫図鑑、犬学猫学各資料プリントにて対応

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い①
2. 給餌、給水と体重管理①
3. 適切温度及び湿度の管理①
4. 動物の健康管理①
5. 動物に異常があった場合の対応①
6. 飼養施設の清掃と消毒①
7. 廃棄物処理及び衛生管理①
8. 動物愛護論①
9. 緊急時の対応①
10. 報告書と引継ぎ書作成①

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い②
2. 給餌、給水と体重管理②
3. 適切温度及び湿度の管理②
4. 動物の健康管理②
5. 動物に異常があった場合の対応②
6. 飼養施設の清掃と消毒②
7. 廃棄物処理及び衛生管理②
8. 動物愛護論②
9. 緊急時の対応②
10. 報告書と引き継ぎ書作成②

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理③
2. 体重管理①
3. フードの適正量①
4. 適切温度及び湿度の管理③
5. 消毒薬品等の管理①
6. 消耗品管理①
7. 廃棄物処理及び衛生管理③
8. 動物愛護論③
9. 緊急時の対応③
10. 犬舎管理責任者対応①

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシッティングを通じて身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理④
2. 体重管理②
3. フードの適正量②
4. 適切温度及び湿度の管理④
5. 消毒薬品等の管理②
6. 消耗品管理②
7. 廃棄物処理及び衛生管理④
8. 動物愛護論④
9. 緊急時の対応④
10. 犬舎管理責任者対応②

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物関係法令

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

人と動物とのかかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学び、自らが啓発すると共に、その知識を飼い主に広められることを目標とする。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶（愛玩）動物（飼養動物）として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものなどに大別できる。法が改正された際には速やかに対応する。

〔講義・演習項目〕

1. 動物と法律の関係
2. 動物関係法令
3. 動物の愛護及び管理に関する法律
4. 動物の飼養及び保管に関する基準
5. 動物愛護関係条例
6. 狂犬病予防法
7. 身体障がい者補助犬法
8. ペットフード安全法
9. 野生動物に関する法令。
10. 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士テキスト

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



科目名：家庭動物管理学

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2  
種類：専門科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要があります。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。家庭動物管理士3級の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 動物取扱業者の職業倫理
2. 動物販売に必要な基礎知識と技術
3. 動物に関する基礎知識と適正飼養
4. 動物の適正飼養と管理
5. 動物の展示方法と衛生管理
6. 犬と猫の病気に関する知識
7. 人畜共通感染症についての理解
8. 犬と猫の適正な繁殖方法
9. 血統証明書の意義と見方
10. ペット関連法規
11. 家庭動物管理士3級の受験

〔テキスト〕

家庭動物管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：接客マナー

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  
種類：専門科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

サービス業務に対する心構え，対人心理の理解，応対の技術，口のきき方，態度・振舞いなど、接客技能を養うことが目標。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対処ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。サービス接客検定2級の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. サービススタッフの資質
2. 従業要件について
3. サービス知識について
4. 従業知識について
5. 社会常識とは
6. 対人技能の人間関係とは
7. 対人技能の接客知識について
8. 対人技能の話し方・服装について
9. 実務技能
10. 過去問題演習
11. サービス接客検定2級の受験

〔テキスト〕

サービス接客検定受験ガイド・サービス接客検定問題集

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

動物病院勤務経験、訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践で行う。

〔講義・演習項目〕

1. アジリティ競技について
2. ハンドラーの動き（スイッチについて）
3. ジャンプ障害（ハードル）
4. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
5. ジャンプ障害（タイヤ）
6. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
7. タッチ障害（Aフレーム）
8. タッチ障害（ドッグウォーク）
9. タッチ障害（シーソー）
10. その他（スラローム）
11. その他（トンネル（チューブ、ソフト））

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

動物病院勤務経験、訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。

〔講義・演習項目〕

1. 停座訓練
2. 伏臥訓練
3. 招呼訓練
4. 居座、立止訓練
5. 脚側行進訓練
6. ジャンプ障害（ハードル）
7. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
8. ジャンプ障害（タイヤ）
9. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
10. タッチ障害（Aフレーム）
11. タッチ障害（ドッグウォーク）
12. タッチ障害（シーソー）
13. その他（スラローム）
14. その他（トンネル（チューブ、ソフト））

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習 I

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において6年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れることを目標とする。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。リードをはじめとするトレーニングの道具は、将来、飼い主への訓練指導の際に役立つ説明の仕方まで学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 日常での犬の接し方
2. おもちゃの種類
3. モチベーターについて
4. リードの種類
5. トレーニングの道具の種類
6. クレートからの出し方
7. コマンドの種類（声符、視符）
8. 停座訓練
9. 伏臥訓練
10. 招呼訓練
11. 居座、立止訓練
12. 脚側行進訓練
13. 校外実習（2022年5月1日～9月31日の間で計2回実施予定）

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において23年の勤務経験があるドッグスクールの所長。家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側行進」などの「オビディエンス」技術を身につけ、実践できることを目標とする。また、実践する際に使用する用具についても適切な方法やタイミング、犬の行動に適した使用であるか実践の中で学ぶ。オブデスドッグアドバイザー試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 日常での犬の接し方
2. おもちゃでの遊び方
3. アイコンタクトの方法
4. リードの持ち方、扱い方
5. コマンドの出し方（声符、視符）
6. 停座訓練
7. 伏臥訓練
8. 招呼訓練
9. 居座、立止訓練
10. 脚側行進訓練
11. 校外実習（2022年10月1日～2023年3月31日の間で計3回実施予定）
12. オブデスドッグアドバイザー試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において23年の勤務経験があるドッグスクールの所長。家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、犬に対する「アジリティ」で必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践できることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. アジリティ競技について
2. ハンドラーの動き（スイッチについて）
3. ジャンプ障害（ハードル）
4. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
5. ジャンプ障害（タイヤ）
6. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
7. タッチ障害（Aフレーム）
8. タッチ障害（ドッグウォーク）
9. タッチ障害（シーソー）
10. その他（スラローム）
11. その他（トンネル（チューブ、ソフト））
12. 校外実習（2022年4月1日～9月31日の間で計2回実施予定）

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において23年の勤務経験があるドッグスクールの所長。家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。停座訓練、招呼訓練、伏臥訓練、脚側行進訓練、居座、立止訓練はもちろんのこと、ジャンプ障害、タッチ障害に至るまで総合実習としての位置づけとなる。オブデスドッグサイエンスアドバイザー試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 停座訓練
2. 招呼訓練
3. 伏臥訓練
4. 脚側行進訓練
5. 居座、立止訓練
6. ジャンプ障害（ハードル）
7. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
8. ジャンプ障害（タイヤ）
9. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
10. タッチ障害（Aフレーム）
11. タッチ障害（ドッグウォーク）
12. タッチ障害（シーソー）
13. その他（スラローム）
14. その他（トンネル（チューブ、ソフト））
13. 校外実習（2022年10月1日～2023年1月17日の間で計2回実施予定）
14. オブデスドッグサイエンスアドバイザー試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



科目名：ペットビジネス演習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペットショップでの顧客対応や売り場づくりを再認識し、ペットが健康な生活を送るために必要な栄養についての知識を詳細に理解する。また、POP広告やグッズ製作について継続的に取り組みペットショップスタッフに必要なスキルの向上を図る。基本的な6大栄養素について学びその知識を基にしたペットフード製作を行う。ペットフード製作においては、犬の健康状態を踏まえた上で、健康な身体作り、健康維持につながる献立を考えて製作する。

〔講義・演習項目〕

1. ペットショップでの売り場づくり
2. 顧客管理の基本
3. 栄養学（栄養と栄養素・食性、採食パターン、嗜好性）
4. 栄養学（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン）
5. 栄養学（ミネラル、水、エネルギー）
6. 栄養学（犬と猫の養分要求量）
7. 栄養学（標準体重と肥満度の見分け方）
8. 栄養学（栄養学総復習）
9. ペットフード製作①
10. ペットフード製作②
11. POP広告制作
12. 洋服製作
13. イベント補助（近隣ショップのイベント補助）

〔テキスト〕

ペットビジネス プロ養成講座 vol.2 フードアドバイザー、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、演習成果物、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットビジネス演習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  
種類：専門科目 分類：選択必修  
授業方法：演習  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペットが健康な生活を送るために必要な栄養についての知識を十分に理解した上で、ペットショップで取扱うブランド別にペットフードの特徴を学び、ペットが健康な生活を送るために必要な知識を理解する。さらに近年ペット市場でも拡大しているサプリメントの作用を理解する。また、POP広告やグッズ製作について継続的に取り組みペットショップスタッフに必要なスキルの向上を図る。栄養学を理解し個々の状態に適したペットフード製作を行う。

〔講義・演習項目〕

1. ペットフード（フードの成り立ち）
2. ペットフード（各種フードの製造・加工法）
3. ペットフード（フードの表示）
4. ペットフード（製造工場見学）
5. サプリメント
6. ペットフード製作
7. POP広告制作
8. 洋服製作
9. イベント補助（近隣ショップのイベント補助）

〔テキスト〕

ペットビジネス プロ養成講座 vol.2 フードアドバイザー、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、演習成果物、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ドッグセラピーⅢ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  
種類：専門科目 分類：選択必修  
授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

本学で行うドッグセラピーは「動物介在活動（AAA）」である。「ドッグセラピーⅠ」「ドッグセラピーⅡ」において、自身のコミュニケーション能力の向上、利用者様への適切な対応、セラピー犬の育成などを行ってきた。発展的にアニマルセラピーを実施する際の先輩指導者として必要な事柄を学び、セラピー犬の飼育、セラピー参加者（施設利用者）、セラピー実施者の情報を確認し、安全かつ適正なセラピー活動を実施する技術を身につけることが目標。また、「動物介在療法（AAT）」と「動物介在教育（AAE）」についても考察する。

〔講義・演習項目〕

1. 指導者としての心構え
2. セラピー施行者に必要な技術
3. 活動施設の把握
4. セラピー参加者の把握
5. セラピー犬の技術
6. 動物介在療法
7. 動物介在教育
8. ドッグセラピー体験
9. 体験からの問題点分析とその解消
10. ドッグセラピー実施の評価と修正
11. 毎週火曜日に、指定する施設にて動物介在活動を実施する

〔テキスト〕

ペットフード／ペットマナー検定公式テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：ホリスティックケアⅢ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修</p> <p>授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。</p> <p>ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによってコミュニケーションスキルを高め合い、個々の思考能力を高める。</p> <p>また、主体的に動物介在活動を行うためにプログラムの立案を行い、参加者に適した接し方や活動における留意点についても思案し、安全かつ適正なセラピー活動を実践する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーのメカニズム</li> <li>2. 精油の応用知識</li> <li>3. アロマセラピーと健康</li> <li>4. ツボ押し療法</li> <li>5. 肉球マッサージ</li> <li>6. 歯ブラシマッサージ</li> <li>7. 調理実習</li> <li>8. 動物介在活動プログラムの立案</li> <li>9. 活動施設の把握</li> <li>10. セラピー犬の技術</li> <li>11. 動物介在療法（AAT・AAE・AAA）の将来</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>

科目名：ホリスティックケアⅣ

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある教員（独立開業している担当教員は8年間の動物病院での勤務経験があり、動物医療についての知識と、ペットマッサージセラピストとしての両方の知識を活かした授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスをを行う手法の修得と動物介在活動における社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。

ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマセラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。

また、社会貢献活動としての動物介在活動を実践する。

〔講義・演習項目〕

1. アロマセラピーに関する法律
2. アロマセラピー総合学習
3. 犬猫のストレス
4. リンパマッサージ
5. 効果的なマッサージの組み合わせ
6. 調理実習
7. 動物介在活動体験
8. 体験からの問題点分析と改善

〔テキスト〕

よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修</p> <p>授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット産業、特にペットショップに従事する人材として、ペットの適正飼養の確保と推進に貢献するとともに顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。</p> <p>飼い主がペットと長く幸せに暮らすために、ペットにとって必要な生活環境を飼い主にとって不都合でない形で提供する必要がある。この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットの選び方からお手入れ方法、しつけや健康管理、獣医療等の知識や技術を学ぶ。</p> <p>また、ペット用品の製作を立案し、コストを意識した仕入れや製作を行うことで知識を生かした技術を身に付ける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペットの選択、入手手段と流通経路</li> <li>2. 動物取扱業と生体の展示方法</li> <li>3. 遺伝学の基礎知識と血統書</li> <li>4. 獣医療とペット保険</li> <li>5. ボディケアとトリミング</li> <li>6. 子犬の教育・しつけの基礎知識</li> <li>7. 子犬の問題行動と対処方法</li> <li>8. 子犬の社会化プログラム</li> <li>9. ペットグッズ製作</li> <li>10. ペットフード製作</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、パピークラス&amp;こねこ塾スタート BOOK、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>

科目名：ペットビジネス演習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット産業、特にペットショップ従事者として、ペットフードに関わる知識やペット共生について正しい知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。

この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、栄養学を中心にペットが健康な生活を送るために欠かせないペットフードの基本的な知識やペットとの共生について学ぶ。

また、ペット用品の製作やイベント企画・運営などを学生主体で立案・実行し、コストを意識した仕入れや製作、運営まで行うことで知識を生かした技術を身に付ける。

〔講義・演習項目〕

1. 犬・猫の基礎栄養学
2. 犬・猫において注意すべき食材
3. ペットフードの歴史と種類、材料
4. ペットフード関係法令
5. ペットフードの製造工程
6. 手作り食
7. ペット共生住宅の歴史と特徴
8. ペット用の環境づくり
9. 子猫の教育・しつけの基礎知識
10. 子猫の問題行動と対処方法
11. 子猫の社会化プログラム
12. ペットグッズ製作
13. イベント（ドッグファッションショー）の企画運営

〔テキスト〕

犬と猫との暮らしの教科書、パピークラス&こねこ塾スタートBOOK、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットビジネス演習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット産業は多岐にわたり人との生活に影響している。ペットに関わる様々な分野について知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。

この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットとのコミュニケーションやより良いペットとの関わり方（旅行・撮影・イベントなど）について学ぶ。また、ペット関連法規をはじめ、ペットに関わる保険について学ぶ。

なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、ペットショップスタッフに必要な知識および技術の向上を図る。

〔講義・演習項目〕

1. 犬と猫とのコミュニケーション
2. ドッグランについて
3. ペット・ツーリズムについて
4. ペット撮影のノウハウ
5. ペットイベントについて
6. 個体識別の意義と役割、種類と方法
7. 事故および災害対策
8. ペット関連法律知識
9. 損害保険の基礎知識
10. 保険募集の基本ルール
11. 保険募集の基本と心構え
12. 損害保険の周辺知識
13. 保険用語
14. ペットグッズ製作
15. ペットフード製作

〔テキスト〕

犬と猫との暮らしの教科書、損害保険募集人一般試験教育テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：15 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修</p> <p>授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット共生には犬・猫の高齢化に伴う様々な知識や技術が必要とされる。ペット業界全体を理解し、接客場面において相談やアドバイスを行うとともに、ペットの適正な発育と健康維持・増進に寄与できる人材を育成する。</p> <p>この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、犬・猫の老化ポイント、食餌・排泄の介助、供養などを学習する。</p> <p>また、ペットが健康で安全な生活を送る上で必要なペットフードに関わる法律や製造・保管などについても学ぶ。</p> <p>なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、より高度なペットグッズ製作技術の習得と広告および映像作品の製作を行う。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペットの老化</li> <li>2. 高齢ペットの病気と介護</li> <li>3. ペットの葬儀</li> <li>4. ペット業界の業種と職種</li> <li>5. 犬・猫の体の構造と生理</li> <li>6. 犬・猫の栄養に関する基礎知識</li> <li>7. ペットフードについて</li> <li>8. ペットフード関連法規</li> <li>9. ペットフードの製造・保管</li> <li>10. エキゾチックアニマル・鳥・観賞魚の基礎知識と食事</li> <li>11. ペットグッズ製作</li> <li>12. イベント（ドッグファッションショー）の企画運営</li> <li>13. 映像作品製作</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、ペットフード販売士認定講習会テキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>

科目名：ホリスティックケア I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（独立開業している担当教員は8年間の動物病院での勤務経験があり、動物医療についての知識と、ペットマッサージセラピストとしての両方の知識を活かした授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

「心身ともに健康」な状態を目指すことは人間も犬も同じである。ホリスティックケアという学問を通して犬だけではなく、周囲の環境や家族、社会や自然などについても学習する。本学でのホリスティックケアの方法は3つ。「アロマセラピー」「手作り食」「マッサージ」であり、本講義では「アロマセラピー」「マッサージ」について学習する。具体的には、ペットの健康管理、癒しに自然治癒力を高めるホリスティック療法で心身一体、心と身体のバランスを保つことを大切に、身体全体のケアを施術できることを目標とする。ホリスティック療法の中でも唯一香りを使用する療法の「ペットのアロマセラピー」、人とコミュニケーションをとりながら筋肉に働きかける「ホリスティックマッサージ」について学習する。

〔講義・演習項目〕

1. ホリスティックケアとは
2. アロマセラピーについて（基礎）
3. ペットのアロマセラピー
4. 精油の基礎知識（基礎）
5. 精油のプロフィール（基礎）
6. 安全な精油の使い方（基礎）
7. アロマセラピー利用法（基礎）
8. ホリスティックマッサージ
9. 経絡とツボ（マッサージ）
10. 基本テクニック（マッサージ）
11. 肩こり（マッサージ）
12. 腰痛（マッサージ）
13. ダイエット（マッサージ）

〔テキスト〕

アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、1回で受かる！アロマセラピー検定1級・2級テキスト&問題集、ワンちゃんのリンパマッサージ、ネコちゃんのリンパマッサージ、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験（実技含む）、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ホリスティックケアⅡ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（独立開業している担当教員は8年間の動物病院での勤務経験があり、動物医療についての知識と、ペットマッサージセラピストとしての両方の知識を活かした授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

「心身ともに健康」な状態を目指すことは人間も犬も同じである。人間だけでなく、犬も高齢化の時代を迎えるにあたり、幸せに生きて欲しいと願う飼主のためにも「ホリスティックケア」により、身体全体のケアを学ぶ。本講義では、心と身体のバランスを保つことを第一に考え、保存剤や化学合成品を使用することなく、ペットが安心して食べることのできる「手作りごはん」について学習し実際に調理することで、「アロマセラピー」「手作り食」「マッサージ」を総合的に学習する。また、アロマセラピー検定2級の出題範囲の消化を行い、アロマセラピー検定2級の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. アロマセラピーの歴史
2. アロマセラピーと地球環境（基礎）
3. 市販のフードと手作りごはん
4. 与えてはいけないもの
5. 栄養素とカロリー計算
6. 食材選びのポイント
7. 調理実習
8. 老化防止（マッサージ）
9. ストレス解消（マッサージ）
10. 快便（マッサージ）
11. 耳のトラブル（マッサージ）
12. 目のトラブル（マッサージ）
13. 皮膚のトラブル（マッサージ）
14. アロマセラピー検定2級の受験

〔テキスト〕

アロマセラピー検定公式テキスト2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、ワンちゃんのリンパマッサージ、ネコちゃんのリンパマッサージ、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験（実技含む）、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ホリスティックケアⅢ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（独立開業している担当教員は8年間の動物病院での勤務経験があり、動物医療についての知識と、ペットマッサージセラピストとしての両方の知識を活かした授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬たちは飼養環境の多様化の中で、人間に合わせた暮らし方を強いられ、心身のバランスを崩し、ペット自身のストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきている。本講義では「ホリスティックケアⅠ」「ホリスティックケアⅡ」の学習内容を発展させ、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットのマッサージを行う。「アロマセラピー」「手作り食」「マッサージ」を基本とし、グループ討論を行うことによって、技術を高め合い、個々人の思考訓練の場をめざす。

〔講義・演習項目〕

1. アロマセラピーについて（応用）
2. アロマセラピーのメカニズム
3. 精油の応用知識
4. 精油のプロフィール（応用）
5. 安全な精油の使い方（応用）
6. アロマセラピー利用法（応用）
7. ツボ押し療法
8. 歯ブラシマッサージ
9. 肉球マッサージ
10. 調理実習

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、演習成果物、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ホリスティックケアⅣ

開講年次：2年 授業時数：15 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（独立開業している担当教員は8年間の動物病院での勤務経験があり、動物医療についての知識と、ペットマッサージセラピストとしての両方の知識を活かした授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

獣医療が発達した今だからこそ、犬の自然治癒力と医療をサポートするホリスティックケアを行い、心と身体を健康に導きたい。本講義では「ホリスティックケア」の集大成として、犬猫の栄養学、手作り食、犬猫のストレス学、アロマセラピー、Tタッチ、犬猫の身体・ツボ&リンパマッサージ、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。目標は飼主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスを行う手法の修得。また、アロマセラピー検定1級の出題範囲の消化を行う。

〔講義・演習項目〕

1. アロマセラピーと健康
2. アロマセラピーの歴史
3. アロマセラピーと地球環境（応用）
4. アロマセラピーに関する法律
5. 肉球マッサージ
6. ドッグセラピー体験
7. 体験から問題点分析とその解消
8. 調理実習

〔テキスト〕

アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、犬の肉球診断Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験（実技含む）、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物繁殖学

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（9年）、専門学校での講師経験がある獣医師。治療のみならず予防診療や幼齢犬へのアプローチ、ペットの為のメディカルアロマテラピー活動も行っており、獣医師として固定概念に捉われない柔軟な視野をもった授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。本講座の目標は、交配時期を正しく理解し、無理のない繁殖について理解できることである。

〔講義・演習項目〕

1. 遺伝の基礎知識
2. 繁殖にあたって
3. 遺伝性疾患の例
4. 性格に関する遺伝
5. 犬と猫の繁殖生理
6. 妊娠期
7. 助産
8. 繁殖系疾患について
9. 人工授精の手順
10. 犬の人工授精の欠点と現状

〔テキスト〕

動物看護のテキスト 独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物病理学

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（5年）、専門学校での講師経験（1年）がある獣医師。現在も動物病院で診療に従事している経験から、最新の情報提供を強みとした授業を展開し、即戦力となる人材の育成に注力している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

生体は怪我、病気などによりその機能の一部が欠損または失われてしまう。予防をすることが大切であるが、まずはその症状を理解することで、原因が明確視される本講義では、様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解することを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 病理学とは
2. 細胞・組織への傷害
3. 老化現象
4. 退行性変化
5. 進行性変化
6. 循環障害
7. 炎症
8. 免疫管理
9. 腫瘍
10. 先天異常（奇形）

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：動物薬理学</p>	<p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（5年）、専門学校での講師経験（1年）がある獣医師。内科外科問わず広い知識を有し、臨床現場で求められる知っておくべき獣医療についてわかりやすい授業を展開しており、動物看護師の育成とチーム医療体制の実現を望む。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療がどのように用いられるかを理解、それらを飼主に説明できるようになることが目標である。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学とは</li> <li>2. 医薬品に関する情報</li> <li>3. 薬物の取扱い</li> <li>4. 薬物の剤形</li> <li>5. 薬物の投与方法とその特徴</li> <li>6. 薬物動態</li> <li>7. 薬物の効果に影響を与える因子</li> <li>8. おもな薬物の特性</li> <li>9. 薬用量の計算</li> <li>10. 調剤法の基本</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>動動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	



科目名：動物感染症学

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（5年）、専門学校での講師経験（1年）がある獣医師。現在も動物病院で診療に従事している経験から、最新の情報提供を強みとした授業を展開し、即戦力となる人材の育成に注力している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学び、感染症を阻止できる人材になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 感染とは
2. 犬と猫のウイルス感染症
3. 犬と猫の細菌感染症
4. 犬と猫の真菌感染症
5. 感染症の検査
6. ワクチンと免疫
7. ワクチンの必要性和種類
8. 犬と猫のワクチネーション
9. 寄生虫とは
10. 内部寄生虫各論
11. 外部寄生虫各論

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：公衆衛生学</p>	<p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（5年）、専門学校での講師経験（1年）がある獣医師。内科外科問わず広い知識を有し、臨床現場で求められる知っておくべき獣医療についてわかりやすい授業を展開しており、動物看護師の育成とチーム医療体制の実現を望む。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>感染症は人から人へ、人から動物へ、さらには動物から人へ感染する。環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。感染症例を基に学習し、感染症の種類、感染経路・方法を理解することで、人畜共通感染症を減らす方法を知る。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生とは</li> <li>2. 人獣共通感染症とは</li> <li>3. 主な人畜共通感染症</li> <li>4. 院内感染とは</li> <li>5. 伝染性疾患を疑う主な条件</li> <li>6. 伝染性疾患の感染経路</li> <li>7. 対策</li> <li>8. 滅菌とは</li> <li>9. 殺菌とは</li> <li>10. 問題演習</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	

<p>科目名：動物内科看護学</p>	<p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（9年）、専門学校での講師経験がある獣医師。治療のみならず予防診療や幼齢犬へのアプローチ、ペットの為のメディカルアロマセラピー活動も行っており、獣医師として固定概念に捉われない柔軟な視野をもった授業を展開している。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般ケアと健康管理の方法</li> <li>2. ウェスネスプログラム</li> <li>3. 定期健康診断</li> <li>4. 歯科予防</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	

<p>科目名：動物外科看護学</p> <p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修</p> <p>授業方法：講義</p> <p>担当教員：実務経験のある教員（教員経験3年臨床経験7年の動物病院院長。若手の育成に尽力した活動を行っており、知識、技術、指導力を備えており、獣医療従事者を目指す学生目線での実習を展開している。チーム医療体制の実現を望む。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科動物看護学</li> <li>2. 救急救命対応</li> <li>3. 創傷の管理と包帯法</li> <li>4. リハビリテーション</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない</p>

科目名：動物臨床看護学総論

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（5年）、専門学校での講師経験（1年）がある獣医師。現在も動物病院で診療に従事している経験から、最新の情報提供を強みとした授業を展開し、即戦力となる人材の育成に注力している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。

〔講義・演習項目〕

1. 入院動物の看護
2. 健康な動物の預かり
3. 幼齢動物のケア
4. 子犬と子猫の行動発達
5. 疾病予防と食事の指導
6. パピークラス
7. 高齢動物のケア
8. 在宅医療
9. 終末期にある動物の看護

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

<p>科目名：動物臨床栄養学</p>	<p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  種類：専門科目 分類：選択必修  授業方法：講義  担当教員：実務経験のある教員（動物病院での臨床経験（9年）、専門学校での講師経験がある獣医師。治療のみならず予防診療や幼齢犬へのアプローチ、ペットの為のメディカルアロマセラピー活動も行っており、獣医師として固定概念に捉われない柔軟な視野をもった授業を展開している。）</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。本講座の目的は、個々の動物にあった栄養管理ができるようになることであり、そのための工夫や技術について学べる内容とする。本講座の目標は、動物のライフステージに合わせた適切なペットフードを飼い主へ伝達できる動物看護師の育成である。</p>	
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物看護と栄養学</li> <li>2. 五大栄養素</li> <li>3. 栄養状態の評価法</li> <li>4. エネルギー</li> <li>5. ペットフードとは</li> <li>6. 犬や猫に与えてはいけない食物</li> <li>7. ライフステージ別の食事管理</li> <li>8. 疾患別の食事の特徴</li> <li>9. 間食とサプリメント</li> </ol>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材</p>	
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。</p>	

科目名：動物内科看護学実習

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（教員経験 6 年臨床経験 27 年の臨床獣医師。主に診察に従事し、獣医師が欲する動物看護師の育成に向けた授業を展開し、チーム医療体制の実現を望む。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。

〔講義・演習項目〕

1. 全身の状態の確認
2. 犬と猫のバイタルサイン
3. 聴診法
4. 各器官系の評価
5. 子犬と子猫の全身評価
6. 動物の保定法
7. 採血と注射および静脈内留置の補助
8. 輸液管理

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床検査学実習Ⅱ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（教員経験6年臨床経験27年の臨床獣医師。主に診察に従事し、獣医師が欲する動物看護師の育成に向けた授業を展開し、チーム医療体制の実現を望む。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物臨床検査学実習Ⅰの応用実習であり、臨床検査の種類もX線検査、超音波検査と範囲が広がることになる。臨床検査の基本である検体検査および生体検査の手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につけることが目標。また、検体の保存法、取扱いと検査後の処理を正しく理解する。

〔講義・演習項目〕

1. 細胞診
2. 微生物検査
3. 検体の取り扱い方（尿・糞便・血液）
4. 検体の取り扱い方（体液、貯留液・組織）
5. X線検査
6. 超音波検査
7. 心電図検査
8. 内視鏡検査
9. CT検査
10. MRI検査

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、動物看護実習テキスト

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。



科目名：動物外科看護学実習

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（教員経験3年臨床経験7年の動物病院院長。若手の育成に尽力した活動を行っており、知識、技術、指導力を備えており、獣医療従事者を目指す学生目線での実習を展開している。チーム医療体制の実現を望む。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得し、チーム獣医療を実現させることを目的とした実習を行う。獣医診療補助などを行うことで、獣医療に貢献し、飼主に適切なアドバイスを提供できる獣医診療従事者の育成を目標とする。インターネット経由によるオンライン授業も認め、音声などによる質疑応答や意見交換を行う。

〔講義・演習項目〕

1. 外科手術における看護
2. 手術器具・機材の準備
3. 術前準備
4. 手術補助
5. 麻酔管理の補助
6. 術後の管理
7. 心肺停止と心肺蘇生法
8. 救急薬物の知識
9. 救急時の輸液療法
10. 動物のモニタリング
11. 救急疾患の基礎知識
12. 創傷の管理
13. 包帯法
14. リハビリテーション

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、動物看護実習テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護総合実習Ⅱ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある本学教員及び企業連携先の担当者（実務者）（実務経験のある本学教員は、動物病院での勤務経験、専門学校での教育経験があり、企業連携先の動物病院での業務を想定した授業を展開している。企業連携先の担当者（実務者）とは企業連携先の動物病院等の獣医師、動物看護師等であり、経験上の指導を実習期間中に行ってくれる。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物病院で体験・実習することで、診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門知識及び倫理観を習得することが目標。これまで修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように生かされているのか、また先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解する。

〔講義・演習項目〕

1. 症状・生体機能管理
2. 感染予防
3. 安全管理
4. 看護動物とのコミュニケーション
5. 飼育家族とのコミュニケーション
6. 動物医療チーム内のコミュニケーション
7. 医療チームの一員としての態度
8. 学習者としての態度
9. 周術期にあたる動物の看護
10. 振り返り授業
11. 動物看護総合実習Ⅱ実習期間

〔テキスト〕

動物看護のテキスト 動物看護実習テキスト、独自に作成した教材プリント教材

〔成績評価〕

通常登校時の出席状況、実習先への出席状況、実習評価書及び実習日誌等において総合的に判断する。